

「戸田にて」

19期 加藤 学

私は1年生の秋に入部しました。秋の合宿中であり、戸田の合宿所に連れていかれました。部屋に入って、まず一番、一人だけ大人がいました。万年床の上で、もじゃもじゃ頭に髭を生やした大人がジロリと。その大人は、現OBOG会長の下遠野さんです。今でも目に浮かぶ、このシーンから、私の戸田での生活が始まりました。

「起床～～」の声で、暗い中ごそごそと起き始め、ストレッチの後、乗艇し朝練です。朝飯を食べ、学校（私は土木なので毎日行っていました。）に行き、夕方に戸田へ帰り乗艇し夕練です。雨でも乗艇して練習です。夜も早々と「消灯～～」の声で寝ます。これを繰り返す生活です。筋トレの綱登りでは、最初、足を巻き付けて登るのがやっとなでしたが、そのうち腕だけで登れるようになり、ヒョロヒョロの非力な身体も体脂肪ゼロの筋肉質な身体に変化していきました。

練習で思い出すのは、荒川で漕いだことです。コックスの橋本君がオール4本を担ぎ、小保方君、棚岡君、高田君、私のクルー4人でフォアを肩に乗せ土手を越え荒川へ艇を運びます。笹目橋から戸田橋まで3kmほどあったでしょうか。何分漕いでいたか記録が曖昧ですが、ひたすら3番棚岡君のお尻を見て漕ぎました。世界で一番、棚岡君のお尻を凝視した男だと今でも自負しています。「やっしまえば、終わりじゃ」のスローガン(?) or 合言葉(?)を口々に、漕ぎ切ったと思います。大変きつかったですが、達成感と満足感がありました。

出場レースは、付きフォアで理工系の他に全日本新人(準決)、インカレ(予選敗退)に出場しました。2000mレースに出場できたのも、監督、コーチ等の先輩方やクルーの面々のお陰と思感謝しています。一度、シングルスカルで理工系に出場したこともあります。春合宿の参加が少し遅れた事もあり、主将の荻野さんからスカルに乗るように言われたものです。ブレードでべたべたと水面を撫でるようなオール捌きから始まり、何度か沈もしたかと思えます。何とか形になり、決勝まで進むことが出来ました。2本のオールを操るスカルに乗れたことは、良い経験となりました。

卒業後、建設会社で主にプレストレスコンクリート橋の建設に携わりました。瀬戸大橋での岡山に始まり、岐阜県白川郷、東北新幹線で青森など全国いろいろな所で橋を架けてきました。夏の猛暑や秋の台風、冬の豪雪など厳しい自然環境の中での仕事でしたが、戸田で得た「やっしまえば、終わりじゃ」を思い出しながら、やり切れたと思えます。現在は、建設会社を退社し、愛知県で建設会社時代の先輩の会社で施工管理の仕事をしています。

大変稀有な戸田での生活でしたが、きつい練習だけではありません。艇の上で見た東の空から昇る朝日と西の空に沈んでいく夕日は、大変きれいで、美しいものでした。戸田でしか、見ることの出来ない貴重な景色でした。今、艇に乗る機会は遠ざかっていますが、そろそろ公園の池のボートでスカルの腕前を、孫娘に何時披露しようかと思案中です。

現役の皆さんの活躍を祈念します。

以上



第25回 相模湖レガッタ(昭和56年10月24, 25日)(筆者@2年生)

・矢部さんクルー(B 橋本(テ)、2: 矢部、3: 工藤、S: 井上、C: 宮地)が準優勝



第22回全日本新人(昭和56年10月16, 18日)

・B: 高田(旧姓: 佐藤)、2: 加藤、3: 棚岡、S: 小保方、C: 橋本



昭和56年 秋合宿(筆者@2年生)

・合宿所内部が写っている貴重(?)な写真